

日本ボストン会 会報

第46号



紅葉狩りの会
(奥入瀬溪流)



2015年を振り返って

茂木七左衛門

元当会会長、独立行政法人 日本芸術文化振興会理事長

2015年という年は、後年我が国の歴史を振り返るときに、幾つかの重要な点でターニング・ポイントとして記憶されることになるかも知れない。

第一は、戦後70年にあたって安倍総理の談話が出され、歴代首相の談話を踏襲するとは言いつつも、極めて抑制した言い方ながらかなり日本の立場を書き込んだことだ。

第二は、いわゆる安保法制が国会を通ったことである。合憲・違憲論争が非常に激しかったが、現在の国際情勢の下で国の安全をどう守るかの基本的な視点を持たねばなるまい。現憲法の前文には「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」という超非現実的な文言がある。こういう「空想的平和主義」ともいうべき理念で、国の安全は確保できるだろうか。

かつては自衛隊だって違憲という見解がもっぱらだった。旧社会党は「自衛隊は違憲、日米安保は即時廃棄」という主張だったが、村山富一氏が首相に就任すると「自衛隊は“違憲合法的存在”、日米安保は堅持」という政策に変わった。国と国民の安全をどう確保し維持するか責任を負う立場になると、現実を直視せざるを得なくなるのだ。



茂木元会長

もちろん、法治国家日本においては法的安定性が重視されるべきではあるが、「憲法守って国滅ぶ」というような事態になってはならない。スジからいえば、憲法を改正してから安保法制の制定にかかるのが正論だ。しかし、占領軍による日本人総洗脳計画“War Guilt Information Program”を淵源とする戦後教育の影響を国民の多くが受け、今尚過度の

贖罪意識と自虐的歴史観を持っている現在の状況では、それはずぐには難しい。

もっとも多くの国民は、この洗脳を受けたという事実さえ知らない。そこで推奨したい本がある。ケント・ギルバート著「まだGHQの洗脳に縛られている日本人」(PHP研究所)と、関野通夫著「日本人を狂わせた洗脳工作～いまなお続く占領軍の心理作戦」(自由社)の2冊である。これまでも何冊かこの問題についての書物は出ているが、比較的薄くて読みやすい本が昨年相次いで出版されたことは非常に喜ばしい。多くの人々に広く読まれることを切望している。

第三は、国際環境である。いまや世界は、ロシアと中国の行動によって第二の冷戦時代に入りつつあるかのようにさえ見える。あるいは、19世紀型帝国主義の時代に歴史が逆転しつつある、と言うべきか。特に中国は南シナ海の岩礁を埋め立てて、これを主権の範囲内だと極めて無理な論理で押し通そうとしており、東シナ海でも、尖閣は日本の領土と記載した地図をかつては発行していたにも拘らず、海底資源の存在が確認された1970年代初め頃から急に自国領だと言いはじめ、これまた昔は自国の領土だったのだから“公船”の乗り入れは主権に基づいた行為だと主張する。

こういう状況の中で、日本が本当の平和国家として、世界に貢献しながら誇りを持って存続するにはどうすればよいか。国民一人ひとりの意識改革も必要だが、責任ある立場の政治家や官僚、そしてジャーナリスト達には、現実に立脚して真剣に考えてほしい。特に外交に携わる人々には、「こと勿れ その場しのぎで先送り」(小生自作の川柳)的な対応は、もはや許されないと悟るべきである。

2015年が、日本の歴史にとってより良い方向へ転換を遂げる出発点になればよいが、と考えている。

「ボストン日本女性の会」の活動 細田満和子(星槎大学副学長)

この度、「日本ボストン会」に入会させていただき大変光栄に思っております。私のボストン滞在は、2008年から2012年までの3年半程度でしたが、ボストンが第二の故郷と思えるほど、同僚や友人たちに恵まれた実り多い日々でした。私は東京大学大学院で博士号(社会学)を取得後、日本学術振興会特別研究員としてニューヨークのコロンビア大学大学院で3年ほどアソシエイトとして勤務し、その後、ハーバード公衆衛生大学院に



女性の会

NEXT EVENTS 奮ってご参加ください

観桜会

日時: 4月2日(土)

午後1時北鎌倉駅

東口集合

散策: 北鎌倉駅→建長寺→

鶴岡八幡宮→鎌倉駅

懇親会: 午後3時半から鯉の助

(鎌倉駅東口)にて

費用: 概算5,000円

詳細: [HP](#)

申込・問合せ: [✉](#)

(申込は3月28日まで)

ハイキングの会

日程: 4月16日(土)

縦走組:

JR高尾駅北口改札口

9時集合

往復組:

京王電鉄高尾山口駅改

札口10時集合

内容: 高尾縦走組と高尾山往

復組に分かれ高尾山山

頂で合流、極楽湯汗を

流し懇親

詳細: [HP](#)

申込・問合せ: [✉](#)

ゴルフの会

日時: 4月21日(木)

午前8時52分スタート

場所: 川崎国際生田緑地

ゴルフ場

会費: 4,000円(賞品代及び

パーティー代)

集合: 8時40分 1番ティー

詳細: [HP](#)

申込・問合せ: [✉](#)

研究員として赴任しました。世界中から集まる同僚は、自国で、また世界のどこか別の他国で、いのちと健康を守るための実践的研究をしていて、医療社会学の分野を背景に、この社会がいかに人々のいのちや生活を守ってゆけるかを探求していた私は、大いに刺激を受けました。

ボストンでの生活は、循環器内科医であり心筋細胞再生の研究を行っていた夫（ハーバード医学校の関連病院であるブリガム・アンド・ウイメンズ・ホスピタル勤務）と、現在17歳と12歳になる二人の娘も一緒でした。家族で来ていたので日本人の友達もたくさんできました。その中で、まず2009年6月に「ボストン日本人女性研究者の会」を発足させました。これは会員が持ち回りで自分の得意分野から話題提供をし、みんなで有意義なことを楽しく学ぶという趣旨の会でした。その後2010年3月に「日米交流



てわっさメモリアルキルト

コンサート」を支援するお茶会が、コンサートを主宰するボストン・シンフォニーの若尾圭介さん（オーボエ）の妻である美絵さん（ピアニスト）によって開催されました。やがて研究者の会の世話役だった私と、お茶会を開催された若尾美絵さんが共同創立者となり、2010年5月に「ボ

ストン日本女性の会」（Japanese Women's Club in Boston : JWCB、以下「女性の会」）が誕生しました。

「女性の会」の会員資格は「自律していて向上心を持ち、他者を尊重できる女性であること」であり、現在の会員は80人以上、活動はレクチャー・シリーズ、お茶会、東北支援を3つの柱としています。レクチャー・シリーズはほぼ毎月開催され、会員や会員の紹介者等に講師を務めて頂き相互学修をします。また、会員同士の交流を図り情報交換をする「お茶会」という形も大切にしており、レクチャー後はポトラックで手作りの料理を持ち寄り、パーティをします。

2011年3月11日の東日本大震災の際は、直後に会員が集結し、東北復興のために様々な活動をしてきました。一例として震災直後の5月に、会員手作りのチャリティー・バザーをボストンのベイエリアで開催し、売上金をボストンベースの震災支援団体に全額寄付しました。また、会員の八代江津子さん（ナンタケット・バスケット講師、JREXボストンの日本人商工会代表）は、「女性の会」の下に「てわっさ」（福島の方言で手仕事という意味）というグループを立ち上げ、バザーの品などを製作してきました。「てわっさ」は現在独立し、ボストンのみならずフロリダや東京にも支部を持ち、被災地に祈りと希望を届けるメモリアル・キルト

NEXT EVENTS

奮ってご参加ください

美術と歴史の会

日程: 5月12日(木)

集合: 午前11時

JR横須賀線逗子駅改札

内容: 神奈川県立近代美術館

葉山館および、葉山

しおさい博物館観覧

詳細: [HP](#)

申込・問合せ: [E](#)

音楽の会

日程: 6月5日(日)、午後2時半

(終了後ビュッフェ

懇親会)

内容: ヒコ高田さんのジャズ

ピアノ・リサイタル

場所: 関幹事宅

(大田区田園調布)

詳細: [HP](#)

申込・問合せ: [E](#)

紅葉狩りの会

日時: 未定

内容: ひたち海浜公園

袋田の滝

(詳細未定)

申込・問合せ: [E](#)

歌う会

日程: 11月

内容: 日本ボストン会総会後の

懇親会のファイナーレ

で酒巻則子先(ニュー

イングランド音楽大学

院指揮科卒)の指揮により、

合唱予定



トを作っています。2011年秋には、沢山の子どもたちが津波の犠牲になった大川小学校にキルトを捧げました。その後も毎年、各地の被災地にキルトを届けていて、今年2016年は福島県立医科大学の学生さんたちに応援の意味を込めて届けます。

さらに「女性の会」では2015年5月に、戦争のない平和への祈りを込め、長崎の原爆投下から題材をとった『長崎の聖母』という多田富雄さん（免疫学者、新作家、故人）の新作のボストン上演（於：ボストン昭和女子大学キャンパス）を支援しました。ダナ・ファーバー病院やマサチューセッツ工科大学におけるワークショップをアレンジしたり、能楽者や能楽奏者のおもてなしをしたりもしました。

私のボストンの思い出の中で「女性の会」は特別のもので、帰国してからも会員のままでいさせていただいています。年に1回はボストンに「里帰り」をしています。いつも温かく迎えてくれます。今回お仲間に入れて頂いた「日本ボストン会」も様々な活動をされていて、参加交流させて頂くのを楽しみにしております。いろいろご教示いただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

大正期にボストンで活躍した石川春水氏の作品 三好彰（当会幹事）

ボストン学生会会の記録を調べた時に大正期に在留邦人の纏め役だった石川春水、栄子夫妻のことがあった。ご夫妻はニューヨークで



日本の陶器などを売っていたが、その後ボストンに移住した。日本人でボストンに店を持った二番目といわれている。滞米が30年にもなるアメ

リカ通であり、ボストンに行った人が必ずのように世話になったことから、ご夫妻を日本税関と呼んだという。当時日本政府の公的な機関がボストンに無かったからご夫妻の世話になったわけだ。

栄子さんは数十人の留学生を大晦日に自宅に招いて年越しそばを振舞い、そのまま談話を続けて新年を迎えとお雑煮で祝った。こういうことで留学生の母と慕われた。

春水氏は日本画家・久保田米遷の門下生であり生涯にわたり日本画を趣味とした。

ご一族の方から頂戴したこの写真（部分）は帰国直後(1926年頃)に春水氏のお母様とともに撮ったものである。

帰国後程なくして急逝した春水氏のために栄子さんが遺墨集『春水畫品』を和英対訳で出版した。この本はハーバード大学の蔵書になっているから同学と何らかの関係を持っていたのかもしれない。

東京帝国大学で国文学を講じた芳賀八一教授(1867-1927)がボストンを訪問した際に次の短歌を詠み与えた。

春の水心のどかに湧き出でて

楽しみ尽きぬ石川の水

ご夫妻のお人柄がにじみ出ているようである

さて前置きが長くなったが、ブルックリンに1903年に釘を一切使わずに建てられた日本風の家屋がある。

当時ニューヨークに居た春水氏が内装を担当したのを最近になって知った。家屋も内装品も往時



のままに現存するが、破風の菊花模様の塑像、龍を描いたステンドグラス、暖炉の周囲の飾りなどが春水氏の作品であることが当時の新聞記事で確認できる。

この家の現在の持ち主は日本趣味であり、この家に合う美術品を蒐集しているという。通常は公開していないが数年前にオープンハウスをしたことがある。

春水氏は帰国後も絵を描いたが、関東大震災で焼失してしまったと栄子さんが書き残している。

氏はボストンでもこのような作品を手がけたことは想像に難くない。それが現存するなら見たいものである。



石川春水、栄子氏は今や忘れられているが、ボストンで作品が再発見されて、ご夫妻のご尽力が蘇るのを希望してやまない。

総会

近藤 宣之

2015年度の日本ボストン会総会は、例年のようにNEC三田クラブで、

11月20日（金）に開催されました。参加者は40名を超え、歴代の会長も多くご参加され、久しぶりの懇談も休みなく盛り上がりました。

会長挨拶、乾杯はじめ式次第、また多くのグループの活動も簡潔にして明快にご報告していただき、限られた時間ながら、楽しく有意義なひとときを共有できました。

ご参加の会員皆様のご協力に御礼申し上げます。



ワーキンググループ活動報告

紅葉狩り

藤盛富美子

詳細報告

2泊3日で十和田、八幡平、角館、を訪れました。参加者10名（吉野先生ご夫妻、酒井さんご夫妻、幸野さんご夫妻、小野田さんご夫妻、藤盛夫妻）でした。この地域は高低差があり、見ごろの場所は十和田、角館と予想通りで、幹事の企画が皆様に喜んでいただけたようでそのことが何よりの喜びでした

* 一日目 東京駅から東北新幹線で3時間弱、八戸駅から星のリゾート奥入瀬溪流ホテルの送迎バスでホテルに向かいました。途中「道の駅 とわだ」で休憩、早速お土産に青森産ニンニクを買い求めたりしました。東北

の温泉は秘湯が有名ですが我々の年齢を考えて秘湯は日帰り温泉にし、ホテルは安全を第一に、とツインベッドルームにしました。奥入瀬溪流ホテルは以前利用したことが有り、巨大暖炉（岡本太郎の彫刻）、窓一面の奥入瀬の景観など予想通り素敵なホテルでした。夕食は和食膳と雰囲気堪能できました。

* 翌朝 ホテルの周りをそれぞれ散策し、知人の紹介の秋田北観光の大型バスで出発。紅葉の奥入瀬をそぞろ歩き、十和田湖遊覧船、十和田湖を眼下に十和田湖産ヒメマスなどの昼食をとり高村光太郎の乙女の像で記念撮影をし





ました。バスに戻り、明治の産業遺産小坂鉱山の古い劇場康楽館、旧鉱山事務所を見て大湯温泉ホテル鹿角に行きました。秋田名物のきりたんぼ鍋を堪能しました。温泉がとてもよかったです。このホテルは主人が数回利用の経験があったので安心でした。

＊ 三日目、大型バスにゆったり座り八幡平に向かいました、八幡平は雪があり風が強くもう冬です。アスピーテラインをドライブし秘湯で有名な後生掛け温泉に寄り 泥湯、箱蒸し風呂、など7種類のお風呂を日帰り入浴で大いに楽しみました。田沢湖芸術村のビアレストランで田沢湖ビールとともにランチ、山川社長のお話を聞きました。角館の紅葉は最高でした。紅葉の中をおしゃべりしながらぶらぶら歩き、角館から東北新幹線で帰京の途につきました。東北の紅葉と温泉を楽しんだ小旅行でした。参加してくださった皆様ありがとうございました。

ました。バスに戻り、明治の産業遺産小坂鉱山の古い劇場康楽館、旧鉱山事務所を見て大湯温泉ホテル鹿角に行きました。秋田名物のきりたんぼ鍋を堪能しました。温泉がとてもよかったです。このホテルは主人が数回利用の経験があったので安心でした。

秋季ゴルフ懇親会

山崎恒（ゴルフ担当幹事）

日本ボストン会では、活動の一つとして、毎年、春と秋の二回、懇親会をコンペ方式で開いております。

基本的に、4月と11月、場所は、川崎国際生田緑地ゴルフ場としております。しかし、

これは絶対と云うわけではなく、よりよいところがあれば、変更は可能です。

さて、秋季ゴルフ懇親会は、11月19日（木）秋晴れの川崎国際生田緑地ゴルフ場で開催されました。今回も、男性5名、女性4名の9名が参加、秋空の下、プレーを満喫しました。土居陽夫さんが、前年の秋季懇親会以来の優勝を果たされました。

今回は、4月の第3木曜日に、開催できればと考えております。

東海七福神めぐり

中笠岩男

1月10日10時、参加者14名が新馬場駅北口下の広場に集合・出発。

いざ品川神社へ。鳥居の前で記念写真。次に

富士塚登山。すぐに山頂。実物ではこうは行かない。本殿に参拝。お目当ての大黒天はちょこん。奥の板垣退助の墓にもお参り。

次の養願寺の本尊は虚空蔵菩薩。脇に公開されている布袋尊像にお参り。参道を下ると一心寺の真ん前。寿老人にお参り。目黒川沿いに逸れて荏原神社の本殿の恵比寿様にお参り。鳥居傍に恵比寿の石像あり。旧東海道の和菓子屋のピリ辛閻魔いなりは女性に大人気。



詳細報告

WG活動（2015年秋～2016年春）

2015年（平成27年）

10月16日 - 18日

11月19日

11月20日

2016年（平成28年）

1月10日

3月6日

紅葉狩りの会（奥入瀬・八幡平・角館）

秋ゴルフコンペ（川崎国際生田緑地ゴルフ場）

第22回総会・懇親会（NEC三田ハウス芝倶楽部）

ハイキングと山の会「東海七福神めぐりハイキング」

伝統芸能の会（国立劇場）新派鑑賞

次の品川寺では、江戸六地藏のお迎え。中では洋行帰りの梵鐘が目についた。本堂にて毘沙門天にお参り。樹齢600年の大イチョウは貫禄十分。立会川に架かる涙橋を渡って、天祖諏訪神社にお参り。福祿寿の大きな額を撫でる。

次は鈴ヶ森刑場跡。火炙用鉄柱と礫用木柱の礎石が並んでいた。供養堂で除霊。

最後は磐井神社。本殿左横にある弁財天にお参り。鈴石と烏石の説明後、ガイドさん達とお別れ。

1時過ぎから食事会。まず、全員生ビールで乾杯。少々汗ばんだので、生ビールは最高。約2時間歓談。天気にも恵まれ、最高の七福神めぐりとなりました。

伝統芸能の会

吉野静子、滝沢典之

平成28年3月6日(日)
国立劇場にて「伝統芸能の会」観劇会を開催しました。

前回までの歌舞伎鑑賞と違い、今回は国立劇場15年ぶりとなる新派公演「遊女朝霧」「寺田屋お登勢」を鑑賞しました。(参加者23名)。鑑賞に先立ち、日本芸術文化振興会茂木理事長(日本ボストン会元会長)のご挨拶と新派公演の概要についてお話をいただきました。今回の公演は、吉原の遊女夕霧(波乃久里子)が、自分のために罪を犯した馴染み客与之助(市川月乃助)を助けるために奔走する切ない人情劇の「遊女夕霧」と、伏見の船宿「寺田屋」の女将お登勢(水谷八



重子)の坂本竜馬(中村獅童)に対する秘めた思いが情感豊かに描かれた「寺田屋お登勢」の二

本立てでした。大変見ごたえのあるお芝居で、大正や幕末にタイムスリップした気持ちで古き日本人のところに思いを馳せて楽しませていただきました。

最後になりますが、茂木理事長はじめ、国立劇場のスタッフの皆さん方には大変お世話になりました。この場をお借りし厚く御礼を申し上げます。

一繕乃会 水野賀弥乃

昨年8月20日に、皇后陛下をお迎えして福島青年管弦楽団がオペラシティ・コンサートホールにおいて東京デビューの公演を致しました。ボストン・ジャパン・ソサエティのpresidentを長年されていたPeter Grilli氏にお頼まれたご縁でこの公演にたずさわりました。今年、彼等は来る4月3日にボストンでボストン交響楽団と共演します。Peterのご尽力の賜物とお喜び申し上げます。福島の中学生、高校生が、美しいボストンで人生にかけがえない思い出と勇気という宝を得られんことを願っております。

本年3月1日には、メキシコ大使館で開催されたILBS(国際婦人福祉協会)のお集りで、NPOファミリーハウスの活動紹介の英語のpresentationを、事務局長に代わって行いました。ファミリーハウスの活動の大切さを大使夫人を含め、東京在住の様々なお国の方々にご理解いただけたことは、有意義なことでもございました。



日本ボストン会事務局 

〒153-0064 東京都目黒区下目黒4-17-6

会報の原稿を募集します。内容はボストンやニューイングランドに関連のあるものとします。ご寄稿頂ける方は、掲載についてご相談をさせた頂きたい、事務局までご連絡ください。連絡先: 